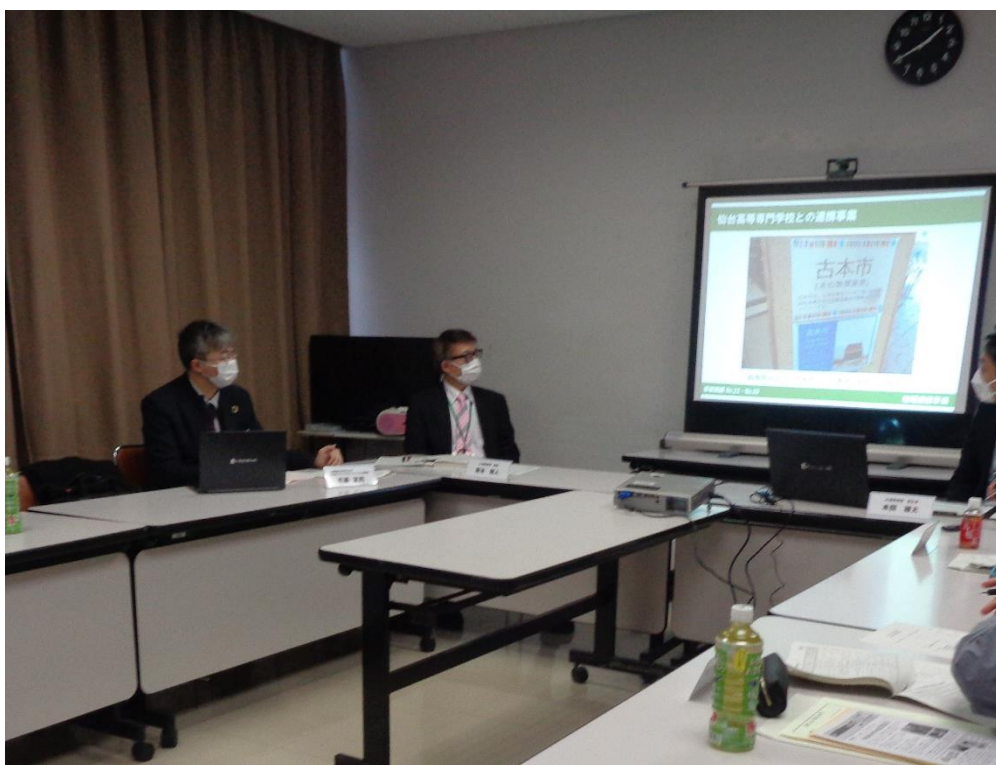


令和5年度 広瀬図書館利用者懇談会 実施報告



- 1 日時 令和6年2月7日(水) 13時30分～15時
- 2 会場 広瀬市民センター2階会議室
- 3 出席者 個人利用者 : 2名
児童館 : 1名
地域包括支援センター : 1名

広瀬図書館 : 広瀬図書館長 他3名
丸善雄松堂株式会社 1名
- 4 配布資料 ①令和5年度 広瀬図書館事業実績
②令和5年度 広瀬図書館アンケート結果
- 5 内容 1. 開会
2. 挨拶 広瀬図書館長
3. 自己紹介
4. 令和5年度の取組み (配布資料①)
5. 図書館アンケートについて (配布資料②)
6. 広瀬図書館へのご意見・ご要望等
7. 閉会

6 広瀬図書館へのご意見・ご要望等

ご出席者の運営評価、皆様から頂戴しましたご意見・ご要望は以下の通りです。

○大規模改修中の広瀬図書館の貸出サービスについて

【広瀬マイスクール児童館から】

- ・大規模改修工事期間中の広瀬図書館の貸出サービスはどうなるのか。

【図書館から】

- ・計画では工事中も可能な限り開館してサービスを提供する予定である。
- ・すべてのサービスを休止する期間も発生するが、それ以外の期間においては臨時窓口を設置して予約資料の貸出等は行うことが想定されている。
- ・先行して若林文化センターの大規模改修工事が実施されており、これに伴って若林図書館でも休館、臨時窓口の設置を行うので、その状況を見ていただくと広瀬図書館の状況もイメージしやすいのではないかと思います。

○ウクライナ紛争に関する図書等の所蔵について

【個人利用者から】

- ・ウクライナの紛争に高い関心があるが、そうしたことを取り上げた本があまりない。関連図書がもう少しあればと思う。

【図書館から】

- ・全体としてはバランスを見ながら購入する図書を選定している。ウクライナとロシアの紛争が起きているからといって、集中して図書を購入するといったことはなかなか難しい。
- ・ウクライナ紛争について言えば、状況がどんどん変わっていつてしまうため所蔵した時点では状況が変わってしまっている可能性があるために購入しにくいという面もある。
- ・前提としてはご説明したような状況だが、ご要望として承る。

○読書支援パックの貸出について

【個人利用者から】

- ・仙台市図書館で行っている読書支援パックの貸出について、広瀬図書館で貸出を受けられないのはなぜか。

【図書館から】

- ・読書支援パックの貸出については、各区の地区館が実施することとなっている。広瀬図書館は青葉区における市民図書館の分館という位置付けであり、支援パックの貸出は行っていない。

【個人利用者から】

- ・残念に思う。

【図書館から】

- ・広瀬図書館での受取が可能となれば便利という点は仰るとおりかと思う。貴重なご意見であり、関連の会議などでそうした要望があったことを共有していきたい。

○図書館職員の窓口対応について

【個人利用者から】

- ・窓口で受付している職員は素晴らしい。対応も早く、満点だと思う。
- ・広瀬図書館に行くといつも「こんにちは」と挨拶してもらえるのがとても嬉しく感じている。

○広瀬図書館職員のオレンジリング着用について

【あやし地域包括支援センターから】

- ・広瀬図書館の職員が着用しているオレンジリングは、認知症サポーター養成講座を受講するともらえるもので、認知症の方をサポートすることを示すもの。以前に広瀬図書館の職員を対象とする認知症サポーター養成講座を実施させてもらったと聞いている。
- ・図書館アンケート結果でも60代以上の利用が多いという結果を踏まえると、図書館にも認知症と思われる方が来館されるのではないかと想像する。

【図書館から】

- ・あやし地域包括支援センターに講師をお願いし、職員向け研修として「認知症サポーター養成講座」を実施した。当時の職員全員がオレンジリングを受け取り、その後も新任職員には講座を受講してもらうこととして、常に全員がオレンジリングを着用することとしている。

○レファレンスサービス・相互貸借について

【図書館から】

- ・図書の所蔵調査から本の内容を基にした事項の調査なども含めて、幅広く利用される皆様からのご相談を受けしている。こうしたサービスは総じてレファレンスサービスと呼ばれる。
- ・仙台市図書館で所蔵していない資料を仙台市以外の図書館から取り寄せて希望されている方に貸出するサービスも実施している。
- ・こうしたサービスについては十分な認知を得られていないと考えているところだが、こうしたサービスをご存じか、また利用されたことがあるかお伺いしたい。

【個人利用者から】

- ・仙台市図書館以外からも資料の取り寄せをしてもらえることは初めて知った。
- ・レファレンスサービスを自分で利用したことはないが、『夜明けの図書館』という漫画を読んでサービス自体は知っていた。

【個人利用者から】

- ・レファレンスサービスについては知らなかった。
- ・以前に多賀城市立図書館に行ったことがあるが、仙台市図書館以外の資料を借りられるというのは、例えば多賀城市立図書館で本を借りられるということか。

【図書館から】

- ・説明したのは仙台市図書館以外の資料を広瀬図書館の窓口で借りることができるということ。多賀城市立図書館であれば県内の比較的近い図書館だが、例えば貸出を希望される資料が近くの図書館に所蔵されていない場合、西日本の図書館から取り寄せてご提供するといったことも可能である。地域資料はその地域の図書館にしか所蔵がない場合もある。
- ・多賀城市立図書館での図書の貸出ということに関して言えば、多賀城市を含む仙台図書館圏13市町村とは図書館の相互利用が可能であり、仙台市在住者は利用登録が可能である。

【個人利用者から】

- ・宮城県図書館を利用することも多いが、自宅は広瀬図書館の近くであり、宮城県図書館まで行くのは大変な面もある。
- ・広瀬図書館に所蔵がなくても仙台市の他の図書館に所蔵している場合は、ネットで予約をして取り寄せてもらっている。

【図書館から】

- ・仰るとおり仙台市図書館のいずれかの館に所蔵があれば、取り寄せて借りることができる。更に仙台市図書館に所蔵がない場合であっても、お調べをして提供できる場合もあるのでぜひご活用いただきたく思う。

○閲覧席の利用について

【個人利用者から】

- ・図書館の奥にある閲覧テーブルの長時間利用はできないという理解でよいか。
- ・長く使っても良いものなのか自信がないままに使っていた。

【図書館から】

- ・図書館資料の閲覧や図書館資料を使っての調べ物のための利用であれば特に時間の制限はない。
- ・持ち込んだ資料を使って勉強をするといった利用については、閲覧利用の多い土日祝・夏休み期間中（7/15-8/31）は6席のうち2席を予約席として2時間ごとに更新する形で利用していただいている。
- ・閲覧テーブルにも各席に利用方法等についての表示を出しているが、内容に分かりにくさがあるのかもしれない。

○入口付近に設定しているブックトラックの図書について

【個人利用者から】

- ・図書館の入口近くにあるブックトラックの図書に帰るときに気付くことがある。面白そうな本を見つけても他の本を借りた後で残念に思うことがある。

【図書館から】

- ・目線の動きとして図書館に来られた時よりも図書館から帰られる時の方が目につきやすい配置になっている。ちょっとした工夫があれば来館時に気付いてもらえるようになるかもしれない。

○広瀬図書館内の長机に設置されている図書等について

【個人利用者から】

- ・視聴覚コーナーの近くに長机が置かれており、そこにも図書が並べられている。これらの図書は棚に入りきらずに置いてあるものなのか。

【図書館から】

- ・ご認識のとおり棚に入りきらない図書を置いている。コロナ禍による一時的な休館や館内閲覧の停止があって以降、図書が棚に入りきらない状態が続いている。
- ・新しい図書の購入と並行して除籍も進めているところだが、図書が棚に収まるまでには至っていない。

○広瀬図書館の館内表示について

【図書館から】

- ・図書館アンケートの結果として館内表示に関する満足度が他の項目に比べてやや低いことに関連する内容として、広瀬図書館では一般書書架の側面にある図書分類表示の変更を行った。表示が変わったことにお気づきだったか。また、お気づきであればどうお感じになったかをお聞きしたい。それ以外にも館内の表示についてご意見やご要望はあるか。
- ・新しい分類表示はテキストだけでなく分類を示すイラストとともに表示を出すようにした。地域包括支援センターで関わっているような、支援を必要とされている方々にとってはやはりテキストだけではなくイラストが一緒に表示されていた方が分かりやすいのではないか。

【あやし地域包括支援センターから】

- ・見えにくい方もいるのでまず表示は大きい方が良い。また、目につきやすい高さなども意識するとよいと思う。

【個人利用者から】

- ・書架の下の段が低く、膝も悪いのでどんな本が入っているのかを見るのに苦労する。今は一番下の段はほとんど見ていない。これは何とかならないものかと考えている。どこの図書館でも同じような形なのか。

【図書館から】

- ・いくらか傾斜してはいるが、確かに一番の下の段が利用しにくいという面はあると考える。
- ・ユニバーサルデザインという視点で高すぎる位置や低すぎる位置には物を置かないという考え方もあると思うが、その分だけ多くの書棚を置くスペースが必要となってしまうので、下の段をまったく使わないという図書館は少ないのではないか。
- ・下の段に本を置く置かないということもそうだが、何かしらの工夫で利用しやすくするといったことは考えられるかと思う。

【個人利用者から】

- ・週に1回は利用させてもらっていて、分類表示の変更にも気付いていた。
- ・仙台市図書館で実施しているイベントにアルファベットなどが書かれたくじを引いて本を借りるというもの（ラッキーブックをさがそう！）があるが、以前は「おはなしのへや」の中にある絵本を探すのに苦労していた。今はおはなしのへやの中にある絵本のアルファベットが部屋の外からも見えるように大きく表示されていて、とても分かりやすくなった。

【図書館から】

- ・「おはなしのへや」の中にはA（あかちゃん向け）、H（生活）、P（あそび）、T（知識）の4つの分類の絵本を置いているが、そのことが部屋の外からでも分かりやすいように児童書担当が工夫したものが現在の表示である。

○「せんだい電子図書館」の利用について

【図書館から】

- ・パソコンやスマートフォン、タブレットなどで電子書籍を閲覧できる「せんだい電子図書館」サービスを利用しているか。

【個人利用者から】

- ・紙の本に馴染みがあって、電子図書館はあまり利用していない。

【図書館から】

- ・電子書籍にも便利な点は多いので活用していただきたく思う。また、あまり知られていない面として、「せんだい電子図書館」では図書のほか雑誌も読むことができる。タブレットなどを使ってサブスクリプションで雑誌を読む方もおられると思うが、無料で利用できるサブスクリプションサービスのような形で活用していただくこともできると思う。

○利用者懇談会の出席者選定について

【個人利用者から】

- ・正直なぜ自分が出席の依頼を受けたのか分からない。

【図書館から】

- ・利用者懇談会の出席者については公募を実施すると同時に、図書館からも普段からご利用いただいている方々にお声掛けをさせていただいた。一面、ご負担をお掛けする形とはなったかもしれないが、本日はご出席をいただき大変ありがたく考えている。

○選書アドバイザー会議について

【広瀬マイスクール児童館から】

- ・とても多くの事業を実施していることが分かった。その中にある選書アドバイザー会議の参加者はどのように集まってきているのか。

【図書館から】

- ・毎年公募を行っている。複数年続けて参加される方もいるが、参加を希望しても応募者多数のため抽選となり、参加できない場合もある。

○絵本作家等の講演会の開催について

【個人利用者から】

- ・読み聞かせ活動に関わっている者として、おはなし会や講座などイベントがもう少しあるといいと思う。例えば、絵本作家の講演会など。広い駐車場もあるのでたくさんの方が参加されるのではないか。そのような予定はないか。

【図書館から】

- ・現時点で開催の予定はないが、以前には開館 20 周年記念イベントとして、とよたかずひこさんの講演会を開催したことがある。また、仙台市図書館としては児童文学者の講演会を毎年開催しており、絵本作家をお呼びすることもある。

○地域包括支援センター及び児童館と図書館が連携する取組について

【図書館から】

- ・児童館や地域包括支援センターに行っている取組の中で、図書館が本を介して関わられるような取組はないだろうか。また、ぜひ連携の取り組みを実現していきたい。昨年は大沢児童館様に利用者懇談会にご出席いただいたが、その際にも何か連携した取り組みをとる話にはなったが、これまでのところ実現していないので、今後も継続して検討していきたいと考えている。
- ・地域包括支援センターとの連携ということについては、広瀬図書館では以前から地域包括ケアシステムの中に図書館をどう位置付けるかということを考えてもいる。例えば、「認知症カフェ」に図書館の本を提供することができないだろうか。

【あやし地域包括センターから】

- ・大変よいと思う。あやし地域包括支援センターが主体となって、現在は毎月第3木曜日の10時から「認知症カフェ」を開催しており、20～25人くらいの地域の方や会場となる老人ホームの入所者、介護施設から職員と一緒に参加される方、社会福祉協議会、宮城総合支所の方などが集まる。1時間ほどの中でいろいろな催し物を行っているので、そこに来ていただくのも良いのではないかな。
- ・老人ホームの入所者の中にはまだまだ元気で歩ける方もいるので、職員と一緒に図書館を利用するといったこともできるのではないかな。
- ・仙台市図書館でも移動図書館を走らせているが、各施設に来てもらうといったことはできるのか。
- ・地域包括支援センターでもフレイル予防など介護講座を実施する機会が多いので、関連の図書にも触れるような形でそうした講座を開催するのも良いかもしれない。

【図書館から】

- ・図書館としてもぜひ継続的に相談をさせてもらいたいと考えている。

【広瀬マイスクール児童館から】

- ・児童館でも様々な施設と連携した取組を実施している。図書館との連携ということであれば、年代にあった本の紹介やブックトークなどが考えられるかもしれない。職員としてもブックトークには大変興味がある。周辺の子育て支援団体の職員を対象にブックトークの講座を開催してはどうだろうか。

【図書館から】

- ・昨年ご出席をいただいた大沢児童館の職員からもブックトークに関する話は出ていると聞いている。図書館職員が児童館を利用する児童向けにブックトークをするというのもひとつの考えではあるが、児童館の職員がブックトークを実施できるように支援するというのもひとつの連携の在り方ではないだろうか。ぜひお声掛けをいただきたい。

○広瀬図書館が今後実施する事業や取組について

【あやし地域包括支援センター】

- ・多くの事業を実施されていて、高齢者を対象にしないイベントであっても図書館で目にするのも良いのかなと思う。
- ・広瀬図書館の周辺地域は今すごい勢いで人口が増えている。図書館ができた頃から比べると錦ヶ丘がまず大きく発展しており、子供ももちろん多いが、高齢の方も増えている。あやし地域包括支援センターでは5つの小学校区を受け持っているが、高齢者の人数は8,000人を超えそうな状況だ。
- ・広瀬図書館には、小さな子供から高齢者まで幅広い年代を対象とする取組を継続していてもらいたい。

○「広瀬区」の分区について

【図書館から】

- ・広瀬図書館は青葉区の図書館として、市民図書館の分館の扱いであるが、皆様は広瀬図書館に地区館になってもらいたいと思っているか。言い換えれば「分区」の問題なのだが、宮城町と仙台市が合併した際、宮城地区の人口が5万人を超えれば分区するという協定があつて編入が成立しているが、実際には人口が7万人を超えても分区の話は進んでいない。
- ・関連して地域住民から仙台市に訴訟も起きたが、仙台市は情報公開を拒否したということがあった。その後上告され、裁判の結果として情報開示が認められたが、その頃の情報が公文書館に整理されておらず、はっきりと分からない状態で問題にもなっている。
- ・予定ではこの地域は「広瀬区」となるはずで、そのために図書館も名称に「広瀬」を冠している。分区には費用もかかる。仙台市では他にも大きなプロジェクトをいくつも抱えていて、この地域の人口が増えても分区の可能性というのは乏しいのかとも思うが、恐らく地域住民からの要望が高まらないと分区の話は進んでいかない。地域住民の皆さんがどう考えているか気になっていた。
- ・分区が成立すれば、この地域の利便も一層高まると考えられる。広瀬図書館も地区館という扱いになり、先ほど話の出た読書支援パックの貸出を実施することの前提ともなる。

【あやし地域包括センターから】

- ・地域の方から聞いた話を思い出した。宮城町が仙台市と合併することでもっと発展していくと思ったのに全然変わらなかったという趣旨だった。その方は地域包括ケアシステムの充実という点でも仙台市の中心に比べて宮城地区は遅れていること話していた。しかし、そういった話を聞いたのはその方からだけで、地域の方からそうした話をよく聞くという状況ではない。本当はそうした声が高まると良いのだと思う。

○地域に図書館があるということについて

【個人利用者から】

- ・図書館が地域にあるということはとても便利で助かっている。癒しをもらっている。

【図書館から】

- ・アンケートの自由記述意見でも職員に対する暖かいお言葉を多く頂戴しており、とても励みになっている。今後ともよろしく願いたい。